



TITLE:

京都大学図書館百年 - 思い出すま まに - 1972(昭和47)年の経済学部図 書室の移転

AUTHOR(S):

内藤, 昭子

CITATION:

内藤, 昭子. 京都大学図書館百年 - 思い出すまに - 1972(昭和47)年の経済学部図書室の移転. 静脩 2000, 37(1): 6-7

ISSUE DATE:

2000-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37574>

RIGHT:

るうえで非常に有効な代替手段であることは確実であると思われ、もどかしさは少しばかり解消されたのでした。

以上、奈良絵本とその鑑賞をめぐって雑駁な見解を述べてきました。奈良絵本への関心は近時ますます深まりつつあり、国際会議が開催さ

れたり、研究書の出版も行われています。さらなる研究の充実が望まれているなか、『お伽草子 物語の玉手箱』展が催されたことは、意欲的な展示が試みられたことも含め、非常に意義深いことと思われました。

(いちかわ あきら)

京都大学図書館百年

思い出すままに - 1972(昭和47)年の経済学部図書室の移転

内 藤 昭 子

昨年は附属図書館も創立100周年だったが経済学部もまた創設80周年を迎え、その記念として出版された『京都大学経済学部八十年史』を見せていただき早速めくったのはやはり「図書室」の頁だった。京都大学在職中に在籍させて頂いた



赤レンガ作りの旧研究棟
(現在は法経北館が建つ)
(昭和46年春)

部局にはそれぞれ独自の様々な思い出があるが、経済学部図書室にもまた大きな思い出がある。

今、八十年史を開きながら経済学部図書室の、特に書庫の移転の一端を思い出すままに綴らせて頂こう。1971(昭和46)年4月1日付で経済学部閲覧掛長を承り、翌年には図書室等の移転作業があることは聞いてはいたが、実情を知りこの移転をチャンスに、何としても解決しなければならない大きな問題が幾つもあることに驚いている余裕もなく、早速移転にむけての準備計画に取り組んだのだった。

新しい建物は旧館の跡地に建てられたため、

事実上、旧館書庫部分以外の解体 新館建設 第1回図書移転 旧館残部解体 新館完成 第2回図書移転というように、図書は建設途中と完成後の2回に分けて移転しなければならなかった。

1972(昭和47)年1月5日から約40日の予定で開始された第1回移転時にはまだエレベーターは運転できず、しかしその時に移転の図書は新書庫の5層等に配架予定であったため、コンテナに詰められクレーンで5層のベランダまで吊り上げて運び込むという、きっと余り例がないであろう方法がとられたのだった。



クレーンでコンテナを吊り上げての図書移転

第1回目の移転は予定通り無事終了、そして息つく暇もなく第2回目の準備に入った。準備計画の段階で皆が一番頭を悩ましたのは、第1書庫の約60%を占めていた和書の配列が、他の図書館（室）の図書の配列とは逆の右から左に向けて並んでいたことで、この機会を逃せばもう配列を左から右に変更できるチャンスはなかなか訪れないであろうと思うと、超難題であってもやり遂げなければならなかった。しかし、計画立案中には「経済学部図書室の和書は右から配列」と、それもこの図書室の特色として良いのではないかと等、もう投げ出したいと思ったこともあった。でも、気持ちを取り直し、どのようにすれば配列を変更することができるか図書室職員皆で何度か集まり考え、また実際に書庫で実験を行ってもみた。その結果配列を変更できる方法は2つあること、しかし何れも旧書庫から搬出時を第1段階として綿密な準備の上で新書庫に運び入れ、第2段階として新書庫に配列された図書を再調整することにより、図書の配列は全て左から右に変更できることがわかり、この問題について解決できる見通しがついた。

その次の問題は、経済学部の図書は第1回移転分を省き5箇所分散されているだけでなく、各書庫に全部門の図書が収められていたこと、更に和書について国内のものを「一般」等と区別され書架も別になっていたため、利用者が検索時に惑わされる様子も見受け、これも此の際一本化する必要性を考えると、1つの書庫ずつ片付けてゆく方法での移転の場合、新書庫でどのように配列すればこの様々な問題を抱えた図書をそれぞれの箇所にもとめられるか、第2回移転計画の立案は本当に頭が痛かった。

これらの難問を無事に乗り切る方法として、運搬の業者によく理解しておいて頂くだけでなく、図書室の全職員で当番を決め時に応じて業者に適切なアドバイスができるような体勢をとっておく必要があり、当番の職員は翌日の作業

箇所を前日にみて問題点を確認しておくこと等、皆で細部に渡ってまで打ち合わせを行った。

7月16日より旧図書室は休室し、8月1日からいよいよ第2回目の図書の移転開始、業者の方々も事情を良く理解して下さり作業は順調に進み、予定通り9月末には全図書の移転は終わった。その最後の作業終了後、運搬を担当して下さった日本通運の責任者から「分かり易く気持ちよく仕事が出来ました」といって下さった時には思わず涙が出る程嬉しかった。



法経本館にあった旧経済学部閲覧事務室

でも、経済ではまだ配列を左から右の方法に変更する作業も含め、様々な問題を持っていて搬入されている総ての図書を一本化して指定の書架に配列する、つまり第2段階といえる作業が進んでいた。これ等の作業も終わり事実上書庫の移転を完了できたのは10月16日の新館における閲覧室開室の前日だった。

最後に、大変な難問が幾つもあり実に難しかった移転を、何の問題もなく無事終了できたのは、共に頑張り信念ともいえるような気持ちで事に当たって下さった、当時の経済学部図書室の皆様のお蔭と、この場をお借りして限りない感謝の気持ちをお伝えさせて頂き、筆を置かせて頂く。

（ないとう あきこ
：元経済学部図書室閲覧掛長）

写真は当時の法学部会計掛長鷲田清一氏が撮影。